

平成 31 年 1 月月例記者会見

【 説 明 】

【「生駒市民は 300 万円で小さな〇〇を買いなさい」講演会】

市長 三戸正和さんの去年のベストセラーで 13 万部売れている「サラリーマンは 300 万円で小さな会社を買いなさい」という本があります。私も読みましたが、生駒市は団塊の世代が地元に戻って来られて、いろんな経験、知識から、まちづくりや小さなビジネスをされています。また、女性、学生の創業支援をし、もっとその人たちの力を使ってほしいという思いがあります。この本の中身は必ずしも退職をされた方ばかりではなく、どちらかというと現職の 40～50 代の人向けで、今後の生駒市において非常に重要なことが書いてあると思います。300 万円というのは一つの例だとは思いますが、高齢者の家族経営をしている小さいけれども健全黒字だが、もうお年だから工場をたたんでしまうとか、そういうような事例が非常に多く、そこで、企業にお勤めだった方がいろんな管理スキルや IT 関係のノウハウを上手く活かしながら、そういうところの事業継承をするというのがこの本の 1 つのポイントです。

本では小さな会社を買いなさいとなっていますが、会社でなくてもよいわけで、例えば小さなお店を何人かで買って経営するということもあるでしょうし、最近では民泊の法律もできて、そういうものを経営していくということでもよいのです。生駒市では既に（市民の方に）ボランティアや寄付などいただいています、ビジネスという切り口でもいろいろあると思います。そんな中で三戸さんに来ていただき、まさにこの本の内容の話や、またパネルディスカッションをして、生駒市でこの本の考え方を具体化していくことを議論したいと思います。退職された高齢者の方ももちろんですが、現職で頑張っておられる方も、今パラレルキャリアで人生 100 年時代という重要な課題になっています。そのようなものを考えてもらえる非常に面白い講演会になると思います。

講演等が終わった後、三戸さんに、「事業継承してほしい」とか、逆に工場やお店等を買取りたいという方に対して個別相談会も実施し、単なる講演会に終わらせない企画となっています。是非ご取材ください。生駒市の新しい方向性に意味ある講演会になると思います。

【生駒市民の新しい働き方シンポジウム】

市長 ふたつめは、生駒市民の新しい働き方シンポジウムです。1 月 26 日にコミセンの文化ホールで行います。第 1 部が働き方改革でいろんな所で講演されている、グーグルの山本祐介さんに講演をいただいて、第 2 部では、シェアリングエコノミーのタスカジの和田社長。あと以前から自治体では生駒市と初めて協定を結んでいる AsMama の甲田社長にも来ていただき、先の山本さんと私の 4 人でパネルディスカッションをいたします。どうか取材よろしくお願いします。

【小瀬送水ルート変更・谷田浄水場廃止事業】

市長 三つめは、水道事業の関係です。生駒市は市制が施行された以前から非常に人口が増えてきた中で、この上水、下水は最適な形で整備をしてきた訳ですが、非常に急激な人口の増加や開発が進んできた中で、今、改めて検討した中でルートを整備する余地があるので、大きな設備更新の時期に当たって、大規模の施設の更新をそのままより、ルートの合理化を含めて、インシャルコストやその後の動力費も軽減できるのではないかと考えたものでございます。

滝寺送水ルートでは、今は山崎浄水場と谷田浄水場の両方から入っていますが、これを中部配水池から滝寺中継所を経ることにより、谷田浄水場を廃止することができるというのが一つでございます。谷田浄水場を、多額の費用をかけて整備する必要がなくなり、動力費も軽減できるというものです。

もう 1 点は、県の平群調整池から山崎浄水場で受け、また小瀬中継所へもどっていたのを、新小瀬中継所を整備することで、直接小瀬配水池へ入れることができるようになります。今までいろんな開発のためこういう戻るようなルートになっておりましたが、それをそのまま施設更新するのではなく、合理的なルートで整備することになります。これにより、施設更新費用として、谷田浄水場の廃止などで約 18 億 2 千万円削減できることになります。ランニングコストも、現状のまま更新するよりも毎年 2,300 万円程度削減できることになります。水道局全体で知恵を絞って、非常に大きな額の削減ができますので報告いたします。

なお、新小瀬中継所の施設見学会を 2 月 20 日に行います。そちらの方も合わせてご取材くださいますようよろしくお願いいたします。

〔近畿大学生が考えた生駒市採用企画採用企画発表会〕

市長 近畿大学との包括協定を結んで 3 年目になりますが、今までも大学の広報部門へ職員を派遣したり、市職員が交代して大学の授業の講師をしたり、いろんな取り組みをしています。今回は、近畿大学の学生に、自分たちも当事者ということでもあるので、生駒市の採用についていろんなアイデアを出してもらい、それを生駒市の採用戦略に生かしていこうというものです。1 月 21 日に近畿大学のキャンパスで発表があります。具体的な中身についてはまだ聞いておりませんが、学生の目線から見た採用戦略、生駒市の採用を改善していくためのアイデアを出していただくということで、市にとってもありがたいですし、学生もそういう研究でいい経験にもなるでしょうし、さらに近畿大学の学生が一つの就職先として生駒市を深く考えてもらうなど、いろんな効果があると思っています。

〔政策形成実践研修の最終報告会〕

市長 5 つめが、政策形成実践研修です。生駒市では以前から政策研修というのがありますが。生駒市ではこの研修を重視しており、元々は入庁 10 年目の職員を対象にしていたのですが、10 年目とか 15 年目でないで政策を提案しないのかということに疑問を感じ、今は入庁 3 年目、4 年目の職員を対象にしています。単に政策を提案して終わりではもったいないし気合も入らないので、政策研修を政策実践研修と名前を改めて、担当課とも調整を取りながら、議論したものが実際の施策になるようにしています。現在、女性の働き方、雇用を支援するハローワークと連携した取り組みをしています。今回はそれをさらに進化させた形で 3 年目の職員が 3 班に分かれて提案をしてくれるということです。いろんな方に聞いて頂くために発表会事体を公表しますので、是非ご取材頂ければと思います。

なお、テーマは、副業支援をさらに進化させる「市職員の地域貢献活動推進」と、生駒市でも雇用が足りず 1 丁目 1 番地の課題となっている「市内企業の人材確保」です。市の工業会でも、今までは整備等の支援が、要望が中心でしたが、去年あたりから「人が雇えない」という雇用の話になってきております。3 つめは、災害対応業務で、去年災害が頻発したということもあり、これが重要であるのはご承知のとおりです。非常によいテーマを 3 つ選んでおり、職員も頑張って取り組んでいるので、私も楽しみにしています。

〔HOLG〕代表 加藤年紀さんのオンリーワン研修〕

市長 最後ですが、地方自治体を応援するメディアで「HOLG」というのがあります。「Hero of local government」の略で、生駒市職員もここの表彰制度で何人か表彰されています。私や職員もインタビューを受けたりしています。今自治体関連のメディアとしては一番勢いがあるところだと思っています。このHOLGの加藤さんが、民間企業出身で今こういうメディアを立ち上げて、全国で講演やパネリストなどで活躍されています。民間企業の目線、HOLG 編集者の目線で地方公務員、地方自治体にいろんな提言をされています。今まで生駒市のオンリーワン研修で、いろんな自治体のスーパー公務員と言われる方々に講演をしていただきましたが、今回は公務員ではないのですが、いろんな自治体ことをよくご存じの加藤さんに特別バージョンの講演をいただきます。せっかく来ていただくので、生駒市のいろんな地域の取り組みなどを見てもらおうと思っています。市職員対象の研修ですが、市民の皆さんやそれ以外でも是非参加していただけますので、ご取材ください。

【 質疑応答 】

〔近畿大学生が考えた生駒市採用企画採用企画発表会〕

記者 採用企画の件ですが、これは今度の採用に反映されるんですか。

市担当者 この採用企画につきましては、まだその内容を聞いておりません。よい企画でしたら是非とも取り入れていきたいと思えます。

記者 共同でやっているのに聞いていない。

市担当者 企画内容については事前に教えてほしいと打診はしましたが、まだ聞いておりません。

記者 発表会までもう一週間後ですよ。連携しているのに情報が来ないんですか。

市担当者 学生なので、ぎりぎりまでかかっているのではないかと思います。

記者 外部に漏らすのは別として、連携しているのに教えてもらえないのはどうかと。市側も発表会に行くんですか。講評はするんですか。

市担当者 人事担当が行きます。その場で講評をする予定です。

記者 学生は何人で、何班ですか。

市担当者 30名で4班です。

記者 そもそも生駒市の採用のレベルが高く、毎年厳しい状況の中で行っているのに、そういう事情も知らない学生がそれを上回るアイデアを出してくれるのかなと思えますが。

市担当者 今までは学生からの生の声は、アンケートぐらいで、あまり聞いていないので、学生側から考えた採用戦略がどのようなものなのかということを非常に楽しみにしています。

記者 違う目線とということですね。今3年生ということは来年就職ということですね。近大からは去年、今年と採用はありますか。

市担当者 あります。

〔小瀬送水ルート変更・谷田浄水場廃止事業〕

記者 生駒の水道は県の水道とは別に運営しているんですか。

市長 県水の部分もあります。

市担当者 奈良県は浄水の供給事業をしています。

記者 生駒市だけが奈良県内で独自でやっているのですか。

市担当者 各市町村独自です。

副市長 奈良市だけが布目ダムで、別のルートの部分があります。

記者 生駒市は県水と自己水の割合は。

市担当者 県水が6割で自己水は4割です。

記者 今回はそれがどうなったのですか。

市担当者 もともと谷田浄水場は自己水です。それを更新するより県水に転換する方が費用的に安いので、谷田浄水場を廃止して、県水に転換するという形になります。

記者 県水と自己水の割合はどう変わるのですか。

市担当者 谷田浄水場は小規模なので、県水が数%増えるだけです。

記者 世帯的には何世帯に関わりますか。何割ぐらいの市民に影響するんですか。

市担当者 谷田浄水場は日量1,000tぐらいですので、全体の1万分の1程度で、4,000人ぐらいです。世帯にすると約1,000世帯です。

市長 今、世帯構成人数が減っているので1,500から2,000世帯だと思います。

市担当者 小瀬地区の工事では2万人ぐらいに影響があります。費用の削減は市全体ということにはなりません。

記者 お金の話ではなくて、市民に対する影響はどうなるんですか。それに関連する世帯はどれくらいかということです。

市長 実際の市民の水道の利便性が変わるということはありませんが、小瀬の部分は8千世帯、滝寺の部分は千世帯ちょっとの方に影響があります。

記者 合理化なので、費用削減という視点が大きいのですね。

市長 18億円の削減なので、大きいです。あまりそういったことを考えずに更新している自治体もある中で、よく考えてくれたと思います。

記者 滝寺中継所は新しく造ったのですか。

市担当者 はい新設です。

記者 それで、見学会があるんですね。

(了)